

第 1 回

逗子市情報公開運営審議会

令和3年2月19日（金）～令和3年3月16日（火）

逗子市総務部情報政策課

令和2年度第1回逗子市情報公開運営審議会

日 時 令和3年2月19日（金）～

令和3年3月16日（火）

場 所 書面会議

議 題

(1) 『広報誌「広報ずし」について（意見）』について

出 席 委 員（7名）

会 長	関 根 進 悟
副 会 長	鈴 木 良 太
委 員	栄 田 美 子
委 員	稲 葉 大 策
委 員	花 野 充 生 子
委 員	小 沢 弘 子
委 員	野々山 隆 幸

欠 席 委 員（0名）

事務局職員

情報政策課 担当課長	矢 島 小百合
情報政策課 副 主 幹	栗 原 達 也

配付資料

1. 会長メッセージ 書面会議にあたって
2. 書面会議の進め方、書面会議フロー
3. 意見書素案
4. H30年度第2回～令和元年度第2回審議会ほか 委員意見一覧
5. 平成29年度 第2回逗子市情報公開運営審議会 議事概要
〃 会議録抜粋 (P32～P36)
6. 平成30年度 第1回逗子市情報公開運営審議会 議事概要
〃 会議録抜粋 (P29～P32)
7. 平成30年度 第2回逗子市情報公開運営審議会 議事概要
〃 会議録抜粋 (P3～P21)
8. 令和元年度 第1回逗子市情報公開運営審議会 議事概要
〃 会議録抜粋 (P37～P44)
9. 令和元年度 第2回逗子市情報公開運営審議会 議事概要
〃 会議録抜粋 (P14～P45)
10. 平成30年度 第2回審議会資料 (企画課)
「逗子市シティプロモーション戦略 2017—2019」
11. 平成30年度 第2回審議会資料 (企画課) 「広報ずしと情報提供」
12. 令和元年度 第1回審議会 会長資料
13. 令和元年度 第2回審議会 会長作成資料
14. 広報ずし 抜粋
2018年 (平成30年) 4月号 (当初予算) (P6～P8)
2018年 (平成30年) 11月号 (財政危機を乗り越え) (P2～P4)
2019年 (平成31年) 3月号 (職員給与等) (P20)
2019年 (令和元年) 5月号 (当初予算) (P6・P7)
2019年 (令和元年) 10月号 (決算) (P20・P21)
2020年 (令和2年) 2月号 (職員給与等) (P20)
2020年 (令和2年) 5月号 (当初予算) (P20・P21)
2020年 (令和2年) 10月号 (決算) (P16・P17)

参考：令和2年神奈川県広報コンクール入選作品を決定の情報 (神奈川県HPより)

令和2年度第1回情報公開運営審議会経過表

日 付	内 容
2月19日(金)	審議会委員了承により書面会議開催決定 審議会資料発送、書面回答(意見聴取)依頼
3月4日(木)	書面回答(意見聴取)締切日
3月4日(木) ～ 3月8日(月)	意見集約、整理(事務局)
3月8日(月)	再回答依頼
3月12日(金)	再回答締切
3月16日(火)	書面会議終了

『広報誌「広報ずし」について』委員からの意見

1	<p>「広報ずし」は市民が情報を得る手段として活用されていると考えますか。 情報公開条例第22条の観点から「広報ずし」に対する委員の意見を記入してください。 (2から13についても同様の観点から記入してください。)</p>
関根会長	<p>受動的に市の情報を全市民が取れる方法は「広報ずし」しかない。HPやチラシ、情報公開を求めることはすべて能動的な手段であり、「広報ずし」の役割は大きいと考える。他市の調査でも広報誌の閲読率は高いというデータもある。但し、内容により、読み込む量はかなり個人差があると思われる</p>
鈴木副会長	<p>情報を得る手段として活用されていると思います。 (定期的な手段としては広報ずし、逗子市役所ホームページ、チラシの3種のみですし。)</p>
栄田委員	<p>年末年始の施設情報や子育て情報などは充分活用されていると思います。しかし、高齢者生活に関しては情報が少ない。</p>
稲葉委員	<p>20歳代は若干少ないものの、他の年代では市の情報ソースとして「広報ずし」と回答した人が90%以上を占めている。(H30年第2回会議資料) これを見ても「広報ずし」は有力な情報提供のツールと理解している。</p>
花野委員	<p>部分的には活用されている。 ただデザインに緩急がなく、意識しないと情報を見ても記憶に残りにくく忘れてしまう。結局、必要なことはスマートフォンから市のWEBサイトを見ている。時勢にあった重要なことが零れ落ちている感じが否めない。どちらかという、市が設置している掲示板を確認することの方が多い。 ちなみに他の広報と比較をすると…、 「広報葉山」とはページ数がほぼ同じだが、内容が薄いような気がする。情報も散漫になっていてまとまりがない。特に巻頭特集が内容のわりに無駄に長い。 「広報あつぎ」はページ数が約半分であるが、特集然り定例の枠然り、伝えたいことが濃くまとまっている。</p>
小沢委員	<p>(逗子市在住でないため、提供いただいた広報誌や、web版を拝見しての印象にとどまりますが) 市の施策を説明し、市民がさらに詳しく知るための手がかりを得る役割を果たしていると思います。</p>
野々山委員	<p>活用されていると思われる。</p>

『広報誌「広報ずし」について』委員からの意見

2	「広報ずし」は2年前くらいから刷新され、文字が大きくなり、写真の量も増えました。それは活字量が減ったとも云えます。このことに関して意見を記入してください。
関根会長	写真が多いことはビジュアル面ではインパクトがなるのかもしれないが、そもそも広報誌に求められることは市民に「伝える」ではなく「伝わる」である。そのことを考えると文章量が大幅に減少したことで広報誌としての役割を十分果たせていない。また神奈川県広報誌のコンクールで入賞等しているようだが、その審査の内容はデザインなどであり、市民に「伝わる」ことをメインに審査をしていないため、評価に値しない。
鈴木副会長	情報理解には文字が大事と考えます。このため、全体のレイアウトを密にするとともに、写真は半分の量に、見出しの文字を小さくし、記事の文字間・行間も狭め、文字量を増やして、情報量のアップを図ると、より魅力的なものになると思います。
栄田委員	写真は過多だと思います。文字の大きさは適当かと。
稲葉委員	活字量が減っても、固有名詞と数値→（日時(期間)・量等）がしっかり記載されれば問題は無い。読みやすいことが一番。
花野委員	不要に写真が多い。写真の大きさも無駄に大きいものがある。写真を見てほしいのか文章を読んでほしいのか中途半端。だから書籍ではないが読後感がないし、記憶に残るものが少ない。また、余白が多く1ページをいっぱい使えていない。行間や文字の大きさなどを含めた紙面のレイアウトの刷新が必要。
小沢委員	幅広い年代の市民がおられますのでやむをえないように思います。（認識が偏っているかもしれませんが）若い世代の方は、文字の羅列は読む気がしない人が少なくない（←市民活動をしている人に聞きました）、高齢の方は細かい字は読みづらい、だとすると、そういった方々にも情報が届くようにという視点は必要だと思いますので。 細かい文字も苦にならない、多くの情報を得たいという層は、web等で自ら情報収集ができる層と重なるのではないのでしょうか。
野々山委員	予算の制約のため、全体のページ数が変わらない限り、文字が大きくなり写真の量が増せば、活字量が減るのはやむをえない。

『広報誌「広報ずし」について』委員からの意見

3	「広報ずし」を閲読することで内容は伝わり、理解できましたか。それとも大まかで内容があまり伝わらず、理解できないことがありましたか。理解できないことがあればどのような点だと考えますか。
関根会長	各項目の内容が中途半端で情報把握がきちんと理解できない。本当に「伝わらなければいけない部分を4Cにするべき。
鈴木副会長	毎号、閲読していますが、2で記載したの情報量不足のため、消化不良の時があります。
栄田委員	知りたい情報があった時、「ホームページ」参照等ありますが、オンラインを使わない世代には厳しい。PCが無く、結局、市役所に問合せ、出向く事となる。オンラインを使う世代には便利
稲葉委員	内容は90%超、その場で理解している。後日、疑問に思ったことも半年に1回位はあったが、別途調べて理解している。
花野委員	「大まか」に内容は伝わる。詳細について結局はWEBサイトに頼ることにはなるが。「広報ずし」を見た当初「パブリックコメントとは何？」と思っていたが、この委員会に入ってからやっと理解した。同じような人も少なからずいるのでは。
小沢委員	わかりやすい説明になるよう努力はなされておられると思います。以前、会長からご指摘のあったパブリックコメントは、広報を見てもなんのことかよくわからず意見を出そうという気にならないだろうと感じますが。せめて、web版からクリックすると説明のページに飛ぶといいのに、と思いましたが、技術的に難しいのでしょうか。
野々山委員	内容は伝わり理解できる。

『広報誌「広報ずし」について』委員からの意見

4	「広報ずし」で取り上げるべき最優先内容とは何だと考えますか。
関根会長	現在の「広報ずし」は、シティプロモーションとなっており、シビックプライドの醸成や行政と市民を繋ぐ、信頼を得る内容になっていない。本来、シティプロモーションは市外の方へすべきことである。
鈴木副会長	逗子の（今後に有益な）防災情報です。 2021.3月号の震災記事に関しても、10年前の話でなく、今後起こるであろう災害による逗子の被害予想、このための対策内容や市民に協力してほしいことなど、将来につながる話に重点化すると良いと思います。
栄田委員	市の生活情報
稲葉委員	市のプロジェクト(道路工事・防災工事・公共施設の運営状況・新しい制度の紹介・講演会等)の通知・紹介。
花野委員	暮らしにかかわる情報。健康・お金・住まい・介護・子育てに関する市民サービス。時勢にあった情報（コロナ関連（医療機関・補助金・助成制度など）、雇用関連）。 プライオリティは低いが市長の毎月の取り組み。
小沢委員	市の施策をわかりやすく市民に伝える（もっと詳しく知りたかったら、どうすれば詳しい情報が得られるかも伝える）。2020年12月の空き家対策は、市の抱えている課題を、市民・市民団体とともに解決していこうという特集で、良いと思います。
野々山委員	市民ニーズにあった、タイムリーでわかりやすい内容。

『広報誌「広報ずし」について』委員からの意見

5	<p>その他「広報ずし」に取り上げるべきと考える内容があれば記入してください。</p>
関根会長	<p>財政難が続く中で、消滅市町村に予測されている。そのことを考えると、行政と市民が信頼を得る内容をプラスしても良いと思う。例えば、各課で市民からの相談で解決できたことを本人の了承を得て紹介するなど。職員の仕事や熱意を市民にもっと伝えるべき。</p>
鈴木副会長	<p>逗子市の各地区のイベントや催し情報が欲しい。</p>
栄田委員	<p>病院建設・逗子高校廃校の後どうなるか？逗子病院前から葉山に抜けるトンネル等、市民生活が大きく変わる情報は、問われたら公開するのではなく、積極的に市側から広報ずしに載せるべき。</p>
稲葉委員	<p>ゆっくり考え、別途提案したい。</p>
花野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・求人情報。市は公的機関であるから民間の求人情報を掲載できないが、市関連で募集している求人はもっとあるはず。逗子市は事業者数が少ないので雇用があまりない。失業者の就職の一步となる情報を提供してほしい。 ・医療機関の紹介。人口に見合った医療機関数が逗子市にはあると以前聞いたことがあるが、逗子市で希望の医療機関を探そうとすると苦勞する診療科も多い。結果、自身は横浜市や鎌倉市に通院している。 ・市の職員が大きく働いた取り組み
小沢委員	<p>以前、審議会で、イベント欄をいつもチェックしているとおっしゃっていた委員さんがおられましたので、そのようなニーズも高いのだと思います。 顔写真が多い、というのも、逗子市は規模がこじんまりしていることも相まって、いいと思います（情報公開と関係なさそうですが）。</p>
野々山委員	<p>特にありません。</p>

『広報誌「広報ずし」について』委員からの意見

<p>6</p>	<p>現状の「広報ずし」の評価について意見を記入してください。</p>
<p>関根会長</p>	<p>広報誌としての役割としては不十分と考える。シティプロモーションの方向になっている。また重要な部分が目立たない。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>毎号、楽しみにしており、評価は高いです。</p>
<p>栄田委員</p>	<p>最近の広報ずしは、申し訳ありませんが興味が失せてきています。結局知りたい情報がホームページと書かれている事が多く、市役所に出向く事が多いです。</p>
<p>稲葉委員</p>	<p>R2年度神奈川県広報コンクールで優秀賞(1席)に選ばれ、また広報写真では優秀賞(2席)を獲得する等、県内でも高い評価を得ていることは喜ばしい。私も高く評価している(特に最近のものについて)。</p>
<p>花野委員</p>	<p>配布されたら必ず読むが、情報が記憶に残ることがあまりない中途半端な内容。行政と市民の距離が縮まるような感じもない。</p>
<p>小沢委員</p>	<p>居住自治体の広報誌より高く評価しています。</p>
<p>野々山委員</p>	<p>おおむね評価できる。</p>

『広報誌「広報ずし」について』委員からの意見

7	現状の「広報ずし」で必要ないページがあると考えますか。
関根会長	シティプロモーションに係る部分。逗子での仕事や生活を紹介する必要があるのだろうか？
鈴木副会長	求人情報の詳細は逗子市役所ホームページに誘導してもよいかもしれません。
栄田委員	特にありません。
稲葉委員	広告が若干入っているが、それ相当の広告収入があると思うので容認できる。
花野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市長だより ・内容が薄い巻頭特集
小沢委員	必要ないページというわけではありませんが、毎回、「傍聴」欄で、教育委員会定例会は未定になっていて、おそらく、広報誌の締め切りまでに日程が確定できないのだろうと思いつつ、残念に思います。教育委員会欄を設けるなら、月1回定例会を開催しています、日時は概ね3週間前にはホームページに掲載しますとか何か情報を書いたらいいのに、と思っていつも見えています（細かい話ですみません）。
野々山委員	必要のないページはないものと考えます。

『広報誌「広報ずし」について』委員からの意見

<p>8</p>	<p>「広報ずし」は4色のカラーページ及び2色のカラーページとで分かれています。このような仕様で市民の方からのパブリックコメントの掲載ページが目立ちにくい2色のカラーページとなっており、気付きにくくなっており、またパブリックコメントを見つけても内容が不十分で市の施設へ閲覧する（ホームページ含む）などの2段階方式になっており、素通りしてしまう方がほとんどであり、パブリックコメントへの意見の数は0～2つ程度です。このように市民と直結する課題のページが充実していないことに対しどう考えますか。</p>
<p>関根会長</p>	<p>「パブリックコメント」は最も市民に伝えるべき内容であり、それが全く伝わっていない。社会福祉（高齢者・障害者・子ども・ひとり親）や逗子の街づくりに関する事など、市民が意見を言えるような内容にすべきである。このページを4Cにして4ページ使えば、意見が0～2のような低い意見数ではないと思う。最低でも20～30位へ意見が寄せられるようにすることが重要。パブリックコメントの閲覧の方法なども大雑把であり、市民から意見を言われるのが嫌なのではないか、逃げているのではないかと疑いたくなる。前市長時代に行われた行政サービスの縮小・廃止が社会福祉（高齢者・障害者・子ども・ひとり親）を中心に行われたことは、何も言えない弱者に寄り添う気持ちは前市長にはなかったであろう。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>パブリックコメントの詳細は逗子市役所ホームページに誘導でよいと思います。</p>
<p>柴田委員</p>	<p>3でも答えましたが、紙面に限りはあると思いますが、ホームページや施設へと言うのが一番困る。広報＝情報を広げる、という意味ではないかと。情報は紙面上で完結してほしい。</p>
<p>稲葉委員</p>	<p>パブリックコメントはあくまでも個人の意見であり、公共の副産物なので、それ程大きく扱う必要は無い。大新聞でも、個人の投稿はそれ程大きくは扱っていない。</p>
<p>花野委員</p>	<p>上記でも言及したが、「そもそもパブリックコメントとは何？」という方が多く、素通りしてしまうのでは。知っていても無関心な方もいると思う。パブリックコメントについて説明するか、わかりやすく「意見募集（パブリックコメント）」としてみてはどうだろうか。また、「みなさまの意見お待ちしております」のような表記を目立つようにレイアウトしてみてはどうだろうか。パブリックコメントが実際に生かされた例なども載せるとよりわかりやすいはず。</p>
<p>小沢委員</p>	<p>項目3. に書きました。 パブコメ手続が形骸化しているのは逗子市に限ったことではありませんが、理想を言うなら、パブコメの対象となる計画案とかプラン案を策定した担当部署の方に、「ここがアピールポイントです」とか「ここは迷いつつ原案をつかったので市民の意見が知りたいです」とか書いていただくと、「どれどれ見てみよう」になりそう？</p>
<p>野々山委員</p>	<p>市民と直結する課題のページの充実が望まれる。</p>

『広報誌「広報ずし」について』委員からの意見

9	<p>2018年（平成30年）11月号「広報ずし」では選挙直前にもかかわらず、当時の市長の顔写真を載せて、「財政危機を乗り越え、安定性を回復」を大きな見出しで、財政難をまるで克服したかのような内容が取り上げられています。単年度決算上ではそのようなことかもしれませんが、長年の累積通算では逗子市の借金は100億円を超えております。この時期の記事をどのように考えますか。</p>
関根会長	<p>市長選挙直前に顔写真付きで「財政危機を乗り越え、安定性を回復」を大きな見出しで、財政難をまるで克服したかのような内容が取り上げたことは、あまりにも酷すぎる。またこの内容は嘘ではないが、市民が逗子の財政が健全化したとかと誤解を招く内容である。市が抱えて累積通算借金など、総合的に説明すべきであった。ここは広報担当セクションおよび担当課に大いに反省をしていただきたい。このことで、市民の行政への不信感は確実に強まった。この記事は完全に「アウト」である。</p>
鈴木副会長	<p>“事前”に財政危機を予測して対策を施していなかった理由の記載が弱かった印象でした。</p>
栄田委員	<p>選挙前は、誤解を招くので、市長コメントは載せるべきではない。</p>
稲葉委員	<p>まったく一方的な記事で、特に選挙前に掲載する内容ではない。掲載するのであれば、累積赤字についても述べるべきだった。とにかくこの時は編集者の頭を疑った。</p>
花野委員	<p>広報作成スケジュールは約2か月前にはすでに決まっていたわけだし、選挙時期もわかっていただけだから、選挙への広報系の意識がかなり希薄だったと思う。 もしくは市長からの働き掛けがあったのか不明だが、完全に提灯記事になっている。プロパガンダは民主主義への脅威である。事実を大いに誤認させているし、なぜこのような事実と異なる記事を掲載しなければならなかったのか、当時の広報係にぜひ聞いてみたい。</p>
小沢委員	<p>首長が、重要な施策等について、自ら説明するということが自体は、説明責任を果たすことだと思います。では、顔写真はダメで直筆署名だけならいいのか、選挙の何か月前だとマズいのかの線引きは難しいように思います。 説明のしかたは、わかりやすく、は、単純化・一面化につながりやすいので、この説明の元データ・元資料はどれ、より詳しい内容は何を見たとわかる、ということ付記していただきたいと思います。</p>
野々山委員	<p>この時期の記事として、内容に問題がないとはいえない。</p>

『広報誌「広報ずし」について』委員からの意見

10	8、9にも関わりますが、毎年「広報ずし」で財政（予算・決算・職員給与等）に関する報告がなされていますが、かなり簡易な報告となっており、経営者層でも読み解けない部分もあり、一般市民では到底理解することができない情報提供の内容となっています。このことに関してどのように考えますか。
関根会長	わかりやすく、真実を伝えるべき。例えば職員年収も平均年齢で出すのではなく、何歳・役職で基本給・各種手当、賞与を細かく3例くらい出すべき。理由としては逗子市の職員年収が財政難にもかかわらず、高いと批判があることは事実である。普通の会社であれば、債務超過で倒産しているようなレベル。
鈴木副会長	例えば予算の場合には、立案の背景、理由に重点化して記載してはいかがでしょうか。詳細は逗子市役所ホームページに誘導でもよいと思います。
栄田委員	中途半端にせず、別冊にしたら良いかと。もしくはオンラインでも良いのでは。興味のある方は、オンラインで情報量が多く取れると思います。
稲葉委員	上場企業でも財政報告は要点と金額を示す程度で、「広報ずし」に掲載するのはこの程度でよい。興味のある人は市議会の議事録とかHPを見ればよいのではないか。
花野委員	詳細に説明があっても理解できない人もいるだろうし、そもそも関心がない人もいるだろう。関心を高めるためにいっそのこと1冊の冊子に毎年まとめて配布するのもありだろうし、わかりやすく説明した横浜市のようなWEBページへ誘導するのも方法だと思う。 ※下記URL参照 (https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/zaisei/jokyo/kaisetu/kaisetu.html)
小沢委員	9. と同内容です。自治体の財政状況について、自分の自治体が全国的に見てどうなのか、わかりやすい指標をいうことで総務省がwebで公表していますが、わかりやすくというどうしてもこんなかたちになってしまい、それだけでいいのか？ということにもなりますし。複雑で多面的な問題について、わかりやすさだけを追求するのでは、正確さや本質的な議論が犠牲になりかねません。広報では、市民に関心をもってもらうきっかけをつくり、もっと詳しく知りたかったらどうすれば情報を得られるかをアナウンスする程度が限界ではないでしょうか。
野々山委員	一般市民に理解できる情報提供であってほしい。

『広報誌「広報ずし」について』委員からの意見

11	<p>上述の8から10を踏まえて、「広報ずし」において、本来伝えるべき情報が市民へ正しく情報提供されているかについて意見を記入してください。</p>
関根会長	<p>問題点として、担当課が何をどこまで伝えるかで、市民をコントロールできてしまうことである。それを防ぐべき手段として、広報誌委員会のようなものを立上げ、情報公開運営審議会会長やその他有識者、一般市民で内容の精査や広報誌の役割・スケジュール等を運営することを提案する。</p>
鈴木副会長	<p>第22条からみると、検討段階での具体的内容の情報不足のところがありますが、これの記載がシビックプライドの醸成につながるかは確信がありません。</p>
栄田委員	<p>情報公開関係の仕事が減るくらい正確に掲載すべき。</p>
稲葉委員	<p>人によっては特定の情報をもっと提供して欲しいと思う人も居ると思うが、現在の「広報ずし」は公平に的確に情報が伝えられていると思う。</p>
花野委員	<p>9は論外。それ以外に関して言うと、おざなりになっている。パブリックコメントや財政状況よりプライオリティが高いものがあるからおざなりになるのかもしれないが、市民が伝えるべき・知るべき権利があることなので、違う形でもいいから公にわかりやすく公開すべきである。</p>
小沢委員	<p>上述に加えることはありません。</p>
野々山委員	<p>本来伝えるべき情報が市民へ、わかりやすく提供されるように工夫が必要である。</p>

『広報誌「広報ずし」について』委員からの意見

12	<p>シティプロモーションは市外から逗子市内へ転入させる役割であり、シビックプライドの醸成は逗子市民が誇りをもって市民であることを意識させます。現状の「広報ずし」はシビックプライドの醸成というよりはシティプロモーションになっています。このことに関してどのように考えますか。</p>
関根会長	<p>シビックプライドの醸成は逗子市民であれば、他市よりもかなり意識が高いと思う。第2段階の行政と市民の信頼関係の構築の内容に向けて広報誌を改善すべき。最終的には財政難・高齢化社会を迎えるにあたり、行政と市民が共同で逗子市をよくする・助け合う街づくりを目指すべきである。その1つの手段が「広報ずし」であり、また効果も大きいと考える。その他、HPの改革などやっていけば、逗子は消滅市町村候補から外れると信じます。</p>
鈴木副会長	<p>シビックプライド観点からは、市と市民が双方向で協力しあえるように、広報ずしとして誘導できるとよいと思いますが、残念ですが、具体的な記事内容が思いつきません。サードエイジ連続講座等の内容をもっと発信してもよいかもしれません。</p>
栄田委員	<p>(コメントなし)</p>
稲葉委員	<p>ページ数に制限があり、もし市外から逗子市内に転入を考える人は「広報ずし」よりはHPを見ると思う。</p>
花野委員	<p>「広報ずし」がシティプロモーション寄りになっているとは思わない。ただ、実際に市民が「よりよいまちづくりに関わる」ための情報提供や働き掛けを行っているかといえばそうでもない。「広報ずし」だけに関して言えば、「広報ずし」の市民モニター募集、広報ずしへの意見を募集・掲載、などを行ってもよいと思う。そもそも市民と行政の距離が近いわけでもないので、「広報ずし」だけでシビックプライドを持たせようとするのは難しい。現実には、「逗子」という環境が好きだから逗子市を愛している人が多いわけで、移住する人も「環境がよく交通が便利」などの理由だろう。多面的に見れば十分なシティプロモーションができていない（ふるさと納税など）部分もあるが、「環境＝シティプロモーション」にすでになっているので、シティプロモーションは必要ではない。内向け＝市民向けのプロモーションを市全体で行っていくことがシビックプライドの醸成に繋がるのではないか。</p>
小沢委員	<p>(逗子市在住者でないせいかもしれませんが) 現状の広報ずしも、市民が逗子愛を深める一助になっているように思います。</p>
野々山委員	<p>シビックプライドの醸成を意識した編集に努める必要がある。</p>

『広報誌「広報ずし」について』委員からの意見

13	その他、意見がありましたら、自由にご記入ください。
関根会長	ほとんどの方が将来への不安を持ちながら生きている。特に弱者対策は重要である。市民と弱者に寄り添う逗子市役所となって欲しい。また逗子市役所への不信感から、他市へふるさと納税をすることで逗子市役所の職員の意識を変えようとする市民が多いことを知ってほしい。逗子市役所に勤務する職員で他市に居住する職員は逗子市へふるさと納税をやってみるなど、自らの行動を市民に見せれば、きっと市民も理解してくれると思う。
鈴木副会長	今回のコメントは広報ずしのページ数が大きく変わらないことを前提としました。このため、ホームページとの連携・分担が必要になることになりました。
栄田委員	今の逗子広報は、若い世代の方が作成している感じがあります。見やすいですが、老人の多い逗子市には老人でも独居でも理解できるようなページがあっても良いのかなとは思いますが。広報のみの仕事をされている訳ではないのでご苦労は理解できます。情報を逗子市側から万人に発信できる逗子広報 本屋さんで売っている情報誌ではない逗子市民の為の広報誌であって頂きたいと思います。
稲葉委員	シビックプライドの醸成は「広報ずし」に絞るのではなく、別の手段を考えるべきではないか。コロナが収まれば講演会等の開催も考えられる。
花野委員	広報活動としてSNSをうまく使うことが必要。ちょっと遅れ気味のような気がする。市内の掲示板に張られる掲示物もPDF、JPEG化してSNSに載せてほしい。掲示板の情報を知らない人も多々いるように見受けられるので。
小沢委員	とくにありません。
野々山委員	特に意見はありません。